



行健中学校だより



校長室の窓から

あなたには夢がありますか？

校長 齋藤正徳

I Have A Dream

Martin Luther King Jr.

I have a dream that one day this nation will rise up and live out the true meaning of its creed: "We hold these truths to be self-evident, that all men are created equal."

I have a dream that one day on the red hills of Georgia, the sons of former slaves and the sons of former slave owners will be able to sit down together at the table of brotherhood.

I have a dream that one day even the state of Mississippi, a state sweltering with the heat of injustice, sweltering with the heat of oppression, will be transformed into an oasis of freedom and justice.

I have a dream that my four little children will one day live in a nation where they will not be judged by the color of their skin but the content of their character.

私には夢がある。いつの日かこの国が立ち上がり、我が国の信条の次の言葉の真の意味を貫くようになるだろう。『私たちはこれらの心理を自明のことと考える。すなわち、すべての人間は平等に創られている。』

私には夢がある。いつの日かジョージア州の赤土の丘の上で、かつての奴隷の子孫たちとかつての奴隷主の子孫たちが、共に兄弟愛のテーブルに着くことができるようになるだろう。

私には夢がある。いつの日かこのミシシッピ州も、このような不正義の暑さにうだっており、このような抑圧の暑さにうだっているこの地域でさえもいつの日か自由と正義のオアシスに変えられることであろう。

私には夢がある。いつの日か私の幼い四人の子どもたちが、彼らの肌の色によって評価されるのではなく、彼らの人格の深さによって評価される国に住めるようになることであろう。



アメリカ合衆国は、1960年代になっても肌の色が黒いというだけで、理不尽な差別が公然と行なわれていました。白人専用のレストランに黒人が入ると、とたんに白人に取り囲まれて、頭からケチャップやマヨネーズをかけられ、罵られながらジュースを首筋に流し込まれたりしました。ほんの40数年前、自由と平等の国アメリカでさえ、こんな状況でした。こんな非人間的な侮辱と不条理に対して、非暴力を掲げて闘い続け、公民権運動を広めていった人物が、マチン・ルーサー・キングという牧師です。

キング牧師は、この絶望的な状況の中で後世に残る感動的な演説を行なっています。「アイ・ハヴ・ア・ドリーム=私には夢がある」と繰り返す演説です。自分の祖先が奴隷として金で売買され、ブタ箱以上に劣悪な奴隷船に乗せられてアメリカ大陸まで連れてこられた事実を知ったとき、キング牧師は何を思ったのでしょうか。その心中を想像するだけで心が痛みます。

上の英文がそのキング牧師の演説の一部です。

「アイ・ハヴ・ア・ドリーム=私には夢がある」に込められたエネルギー

一と不屈の精神は、いったいどこから来るのでしょうか。平和ほけのぬるま湯につかっている私でさえ、何度読んでも自然に涙がこぼれます。それは、たんなる感傷ではなく、高貴なものに聖なるものに触れた時に湧き起こる感動ではないでしょうか？肌の色が違うだけで差別され、絶望と無気力、屈辱と自暴自棄の状況から立ち上がるキング牧師の不屈の魂。

人生を精一杯生きるとは、幸福な人生とはいったい何なのでしょう？ その一つは、感動する心です。高貴なものに至高なるものに感動する心を、自分の外ではなく自分の心の中に発見して目覚めさせることでしょう。もう一つは、本質を見抜く目を持つことです。数多くの事柄の中から本物と偽物を識別する眼を心の中に養うことです。

心の奥底に眠っている力を呼び起こし、本物の目で自分の人生を見つめてほしいものだと思います。

キング牧師は、1929年1月15日にジョージア州アトランタに生まれました。

(リズングハート「心の杜」より抜粋)

第2回学力向上週間(1・2年)実施

3学年が県立I期受験を迎える中、今週、11月に続き第2回目の学力向上週間(1・2年)を実施しました。

学力向上週間は、希望者を対象に、復習を中心に基礎学力を確実に身に着けることをねらいとしています。

放課後の短い時間での実施ですが、担当の先生方は、限られた時間の中で、一人ひとりに丁寧に説明をしたり、質問に答えたりしながら熱心に指導をしました。参加した生徒達も、皆、集中して問題に取り組んだり、積極的に質問をしたりして、大変意欲的でした。生徒からは「難しかったところが分かるようになった」、「またやってほしい」等の声が聞かれ、実施の成果が窺われました。自主学習、家庭学習の習慣を身につける契機となることも期待できます。



郡山市少年の主張コンクール発表大会 2月2日開催

優秀賞受賞 「言葉の力」 2年 関戸さん

皆さんは、日頃何気なく口にする言葉、その言葉の力を考えてみたことはありますか。

私は自分の言葉が周りの人に与える影響について、深く反省する出来事がありました。

県大会出場の手を決める大切な水泳大会の前に、極度のプレッシャーのため、「最悪だな」とか、「タイムが出なかつたらどうしよう、どうせやっても無駄だよ」と、メンバーの前で、口にしてしまいました。そんな私や周りのメンバーの様子に気づき、コーチに、

「お前はメンバーの気持ちを全く考えていない。お前の言葉が、必死でモチベーションを上げている人を不快にしていることが、分からないのか。」

と、どなられました。その瞬間、私は気づきました。今まで一緒に汗水を流して練習してきた仲間の顔が、どんよりとくもっていることに。自分勝手な発言のせいで、大事なレースの前に、皆に嫌な思いをさせていたのです。

泳ぐ前に、苦い、大きな後悔が胸の中にじわりと広がりました。

また、言葉の持つ力の素晴らしさについて考えさせられる出来事がありました。

先日出場したNHK放送コンテストで、いわき市立岩崎中学校の作成したテレビ番組で、一粒の種を知りました。それは、わずか7歳で亡くなった少年が、残した種でした。「命のあさがお」と名付けられた種は、「命の尊さを伝えるメッセージ」として、県内外と広まり、海外研修へ赴く生徒によって、国外のオーストラリアにもその花を咲かせています。

しかし、国外へと種を持っていくことは、きわめて困難なことでした。

オーストラリア大使館に直接、種に込められた命の尊さへの思いを、手紙につづって送ったところ、海外研修の出発2日前にやっと、大使館から許可がおりました。命を大切にしよう。その純粋な思いを、他人に言葉で、文字で伝え、それが人の心を動かしたのです。

つまり、世界という大きな壁をこわしたのは、ほかならぬ、言葉の力だったのです。

今、私達は、言葉を大切にしているでしょうか。誰かに言葉を伝えるということは、自分という人間を言葉によって表現することです。私は今、「言葉の力」を知りました。しかしそれは、とても怖いことでもあります。安易に言葉を使うことによって、人を傷つけてしまうことを、知ってしまったからです。

現在、多くの若者が目にする、インターネットの掲示板、携帯電話のメール、顔の見えない発信者による書き込みの言葉で傷つき、心に深い傷を負う人は少なくありません。

日本人は、自分の思いを伝える細やかな言葉を使っています。愛おしい、懐かしい、恋しい、そうした言葉を忘れ、好きか嫌い、もしくは、「最悪」といった言葉を口にする私達、今、もう一度、伝えるべき言葉を考えてみるべきではないでしょうか。

私の持つ、「言葉の力」が人を動かすのだとしたら、周りの人々への感謝の思い、そして、命の尊さを伝えたいです。

皆さんは、今、自分の言葉で何を伝えますか。



県立I期入試終わる

今週、県立I期入試が行われました。県立I期入試は自らの明確な進路希望と適性を踏まえた自己推薦による受験です。志願理由書、面接、小論文等により目的意識や中学校での学習や部活、係り活動等の成果を見られ、それらが合否の判断材料となります。早い段階から進路の目標を持ち、日頃の授業、学校生活にしっかり取り組むことが大切です。

1・2学年では、受験に臨む3年生の姿を見ながら、将来の職業選択という視点に立った進路指導、高校進学を視野に入れた進路指導、現時点の学習や定期テストに向けての指導と、それぞれ長期、中期、短期の目標を見据えて進路指導を進めていきます。

《今年の県立I期小論文問題》

- ・「中学校生活で努力したこと」(400字): 郡山商業
 - ・「どのような文化的生活を送るべきか」(400字2段落構成): 安積
 - ・「技術発展の影響」を読み、要約200字、自分の考え400字。: 郡山
 - ・「小惑星探査機はやぶさ」の社説を読み、1段落目に要約、2段落目これから宇宙開発について自分の案を書く。(400字): 郡山東
 - ・「文化、伝統はその国の人々に共有され、合理化されても変わることはない」という意見に対する自分の考えを書く。(400字): 安積黎明
 - ・「部活動で学んだことを高校生活にどうかかすか」(600字): 安積開成
 - ・「ルール関係」、「フィーリング関係」についての文章を読み、自分の考えを書く。(600字): 郡山萌世
 - ・「情報化社会」を読み、自分の考えを2段落で書く。(600字): 船引
 - ・「人生の豊かさとはなにか」。(600字): 本宮
- ※ 小論文の他に、英語の長文読解等の5教科からの問題、北方領土に関する時事問題等が出題された高校もあります。

生徒の除雪作業



今年の冬は積雪が多く、朝、校門や昇降口、駐車場の除雪をすることが何度かありました。出勤した職員が除雪をしていると、登校してきた生徒達が次々と除雪作業に加わってくれます。火曜日の朝も、たくさんの生徒の手伝いで、積もった雪があつという間に片付いてしまいました。除雪に限らず、本校の生徒は、何でも進んで手伝ってくれます。お手伝いをしてくれた生徒の皆さんありがとうございました。

【来週の主な予定】

- 7日(月) 月12345
- 8日(火) 火123456
- 郡山女子大附属高校学力選抜
- 9日(水) 水1234木6水6
- 新入生保護者説明会
- 小中学校優秀選手のつどい
- スクールカウンセラー
- 10日(木) 木12345:午前B案
- 授業参観 13:30~13:40
- 学年学級懇談 14:40~15:40
- ※ 14:30 下校(部活諸活動中止)
- 11日(金) 憲法記念の日
- 県中ユニバドミントン大会
- 中学校合唱パトリダ-講習会

